

RSウイルス感染症

日本では、11～1月に流行のピークを迎えます。主に乳幼児が感染する呼吸器感染症です。生後1歳までに半数以上の乳児が罹患し、3歳までにほとんどの小児が抗体を獲得します。再感染は普遍的にみられますが、重症となることは少なくなります。

・ 潜伏期間

2～8日(典型的には、4～6日)

・ 感染させるおそれのある期間

3～8日

※乳幼児では、3～4週間、持続することもあります。

・ 感染経路

- ・飛沫感染
- ・接触感染

・ 症状

症状がある期間：7～12日

- ・発熱、鼻汁など

※重くなる場合には、咳がひどくなる、喘鳴が出る、呼吸困難となるなどの症状が出現し、場合によっては、細気管支炎、肺炎へと進展していきます。

・ 治療法

対症療法(酸素投与、輸液、呼吸管理などの支持療法が中心)

・ 予防法

- ・うがい、手洗い(流水と石けんで十分に行う)
- ・咳エチケット
- ・日常的に触れるおもちゃなどの消毒

※消毒にはアルコール及び塩素系消毒薬(次亜塩素酸ナトリウム)が効果的です。